

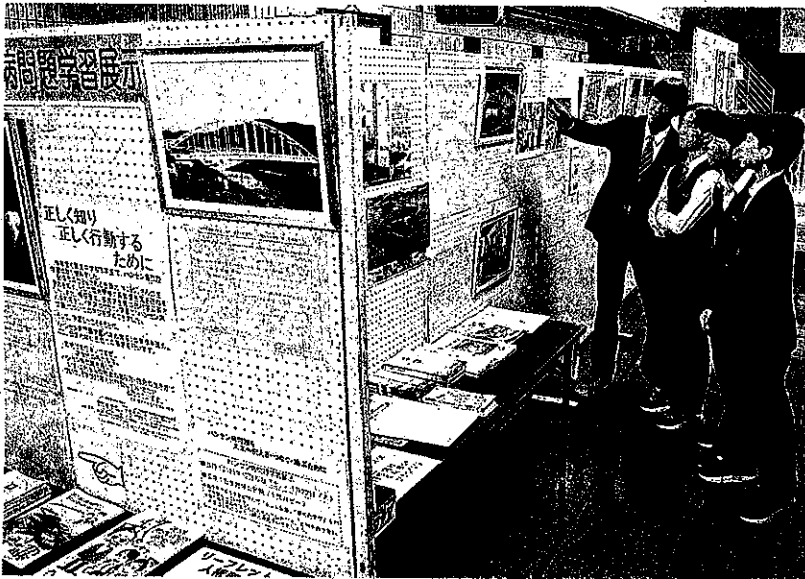
「ひとのあいだ」は、日生中学校の様子(学校・生徒の取り組み)を知っていただき、ご家庭と連携・協働していくため、そして〈地域と共にある学校〉の取組の一環として随時お届けします。日生中学校ホームページからいくつかの活動について紹介します。

○地域と共にある学校 山陽新聞(12/9より)

過ち繰り返さないで

日生中生ハンセン病パネル展 地元公民館

授業で学んだハンセン病問題を市民にも知ってもらおうと、備前市立日生中の生徒たちが日生地域公民館(同市日生町日生)でパネル展示している。国立療養所・長島愛生園(瀬戸内市)に残る隔離政策時代の歴史的建造物などの写真20枚と一緒に自分たちの思いをつづった説明文を掲示し、過ちを繰り返さないよう訴えている。来年1月22日までの予定。(阿部光希)



日生地域公民館でハンセン病問題のパネル展示を見る日生中の3年生たち

愛生園 隔離政策 歴史伝える

ハンセン病学習は3年生35人が2学期、総合的な学習の時間などを使い実施。10月に愛生園を訪れ、船で収容される患者が最初に降り立った収容桟橋や懲罰施設の監房、納骨堂などを巡ったほか、愛生園歴史館の学芸員の講義を受けるなどして学んできた。展示は人権週間(4月10日)に合わせ企画した。

説明文は手書きの計31枚。収容桟橋の写真では、もし自分が患者と同じように家族や友達とも会えなくなったらと想像したなどとし、差別をしないためには「正しく知って正しく行動することが大切」と記している。

愛生園に到着した患者が最初に入った収容所の写真では、療養所から逃げ出さないよう所持金を取り上げられ園内でしか使えないお金を渡されたことなどを説明。開園当初は定員超過で食事も十分ではなかった状況にも触れ「想像してもしきれないくらい怖くて辛かったんだろうな」と思ったと書いていく。

4日に準備で会場を訪れた山下礼人さん(14)は「多くの入所者が飛び降り自殺を図った海岸の崖に立ち、心が痛んだ」、浅木隼さん(14)は「ハンセン病に限らず、きちんと知ろうとしないことが差別につながる。考え方や立場が違う人とも関わるのが大切だと思った」と話した。

開館時間は午前9時から午後9時。月曜と12月29日・1月3日、13日が休館。

